

年	おもな出来事
1535	・スペイン人司教トマス・ベルランガが漂着しガラパゴス諸島を「発見」（それ以前のインカ人発見説があるが確証されていない）
16-18世紀	・無人島だが、海賊船の根城、捕鯨船の補給基地として利用される ・ヤギなどの家畜が放たれ、多数のゾウガメが食料として持ち去られる
1807	・アイルランド人パトリック・ワトキンスがフロレアナ島に居住
1809	★チャールズ・ダーウィン誕生
1832	・エクアドル共和国がガラパゴスの領有を宣言 ・ヴィジャミール将軍がフロレアナ島に入植地を建設
1835	★チャールズ・ダーウィンがビーグル号でガラパゴス諸島を訪れ約5週間滞在し、自然観察と標本採集を行う
1845	★ダーウィン「ビーグル号航海記」（1839年発表の報告書を訂正増補）
1859	★ダーウィン「種の起源」（初版）を発表
1882	★チャールズ・ダーウィン死去
1888	・マヌエル・コボスがサン・クリストバル島に「プログレッソン」開拓
1897	・イサベラ島プエルト・ヴィジャミール、サント・トマスへの入植開始
1905	・カリフォルニア科学アカデミー調査団による学術調査、生物標本採集
1924	・サンティアゴ島で採塩業が営まれる（～1930）（1960～68年に再度）
1926	・ノルウェーからの入植者多数到来（のちにほとんど撤退）
1932	☆カリフォルニア科学アカデミー調査団に浅枝利男が同行 ・ウィットマー家がフロレアナ島に入植
1934	●エクアドル政府が14島を動物保護区に指定
1935	・サンタ・クルス島への入植がはじまる
1942	・アメリカ空軍がバルトラ島に基地を設置（～1946）
1949	・人口が1千人を超える（1,190人）
1957	●ユネスコ・IUCN学術調査（アイブル・アイベスフェルト、ポーマン）
1959	★チャールズ・ダーウィン生誕150年、「種の起源」発刊100年 ●ガラパゴス国立公園指定 ●チャールズ・ダーウィン財団設立（ベルギー） ☆東京水産大学が「海鷹丸」でガラパゴスに調査団を派遣（調査団員として小野幹雄（JAGA理事長）が参加）
1964	●ガラパゴス国際科学事業計画（GISP）調査団による学術調査 ●チャールズ・ダーウィン研究所開設（☆GISP調査団員伊藤秀三（JAGA会長）が開所式に出席） ●エスピニョラ島のゾウガメ14頭を捕獲し保護増殖事業が始まる
1968	●ガラパゴス国立公園管理局設置
1969	客船LINA-A号就航、クルーズ観光の幕開け
1971	●ピンタ島種ゾウガメ最後の1頭「ロンサム・ジョージ」が発見・捕獲
1972	○ユネスコ世界遺産条約採択
1973	●国立公園管理計画（第一次）
1978	○世界自然遺産第1号登録（陸域のみ）
1984	●ユネスコ生物圏保護区（MAB）に指定
1986	●ガラパゴス海洋保護区指定 ・この頃から来訪者数が急増し2万人を超える（26,023人）

年	おもな出来事
1991	・人口が1万人を超える（10,207人） ・この頃からナマコ漁始まる
1992	●海洋保護区管理計画（第一次）
1994	○ガラパゴス海洋保護区の世界自然遺産への追加を検討も保留 ・来訪者数が5万人を超える（53,825人）
1995	●ナマコ漁規制をめぐる紛争激化（国立公園管理局、チャールズ・ダーウィン研究所封鎖事件など：「ナマコ戦争」） ○危機遺産リスト入り検討（～97年）も、特別立法を条件に見送り
1996	☆堀江謙一がモルツマーメイド号で単独無寄港太平洋横断の途上イタバカ海峡を通過（翌年、堀江謙一船長岬とモルツマーメイド島命名）
1998	●ガラパゴス特別法制定、海洋保護区の拡大、移民規制など実施 ●ガラパゴス海洋保護区の拡大 ☆日本経団連自然保護基金（KNCF）によるチャールズ・ダーウィン財団助成事業開始（～継続）
2001	○海洋保護区の世界自然遺産登録（陸域と統合） ・ジェシカ号座礁・重油流出事故
2002	☆チャールズ・ダーウィン財団が（財）国際花と緑の博覧会記念協会よりコスモス国際賞受賞
2004	☆JICAガラパゴス諸島海洋環境保全計画事業開始（～2009年） ☆アジア太平洋生物多様性保全こども会議（イサベラ島よりゾウガメ友の会メンバーを招へい）（地球環境基金助成事業）（～2006年） ・来訪者数が10万人を超える（108,934人）
2005	☆特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会（JAGA）設立
2006	・センサス人口19,184人
2007	○エクアドル大統領危機宣言 ○ガラパゴス諸島の危機遺産リスト登録 ☆コスモス国際賞第15回記念事業でチャールズ・ダーウィン財団理事長グラハム・ワトキンス博士来日
2008	☆BESSフォレストクラブによるネイティブ・ガーデン・プロジェクト（サン・クリストバル島）支援開始（～継続） ・来訪者数173,420人
2009	★チャールズ・ダーウィン生誕200年、「種の起源」発刊150年 ●ガラパゴス国立公園50年、チャールズ・ダーウィン財団設立50年 ●ガラパゴス科学シンポジウム開催（チャールズ・ダーウィン財団） ☆トヨタ環境活動助成プログラムによる環境教育支援（～2010） ☆フィンチ研究のグラント夫妻が（財）稲盛財団より京都賞受賞 ・来訪者数163,480人
2010	・国際生物多様性年 ・ガラパゴス統計局（INEC）の予測人口24,366人

凡例：

●保全関係 ○世界遺産関係 ★チャールズ・ダーウィン関係 ☆日本との関係 ・その他